

第4回 航空機の脱炭素化に向けた新技術官民協議会 議事要旨

日 時：令和7年3月18日（火）13:00～15:00

場 所：オンライン会議

事務局からの資料説明後、以下の意見交換がなされた。

意見交換

◇技術動向について

- ZeroAvia 社からの水素 WG での取組発表について、水素WGで検討していたものと方向性は一致していたか。
- ⇒ 燃料電池を用いた主に推進系統の研究開発として、足元では小型機への適用を目指し、徐々にスケールアップしていく、そのタイムラインや将来の空港での運用イメージが紹介された。いずれも水素WGの想定と大きく異なるものはなかったと認識している。

◇国内協議団体に関して

- 国内協議団体の将来的な成長見通しはどのようなものか。
- ⇒ 将来のあるべき姿を議論したものの、まだ議論が十分ではなく合意には至っていない。ミニマムスタートをしながら議論を継続することを想定している。

◇人材育成・確保の調査結果に関して

- 規格開発を行う者について、文書作成に関与できるようになるには実務10年程度の経験が必要とのことであったが、他業界でも同様か。
- ⇒ 文書作成に関与できるのは対象技術領域のトップエンジニアかつ、2～3年の国際標準化の会議の参加経験を有し、各参加者の問題意識等を把握した者でなければ、影響力のある的確な修正提案を行えないのが実態。航空機分野で取り組んでいるSAE等の国際標準化団体はメンバーシップが個人又は企業であるため、個人の専門性やプレゼンスが求められる点がISO等と異なり、他の業

界と異なる点である。さらに航空機分野では認証も重要となるため、認証に関する知見を得るための経験も必要である点もふまえ、「実務 10 年以上の経験」と表現している。

◇開発用試験設備の環境整備に係る議論状況に関して

- ①国際協業の中でポジションを上げていくために必要な試験設備、②中長期的に国家として保持すべき完成機事業に必要な試験設備の観点から設備の検討を行ったとのことだが、それぞれどのような設備が該当するのか。
- ⇒ 電動化、推進系の環境新技術、インテグレーション技術の 3 つの技術分野に分類し、それぞれ検討を行った。例えば①については電動化や水素化技術といった環境新技術を高度化していくための技術、②については全機レベルでの試験を実施に必要な設備が該当する。我が国としてどのようなコンセプトで技術実証を行っていくのか、どのような機体開発プロジェクトを進めていくのかを検討し、足並みを揃えとともに、それぞれの設備の運用方法等についても議論を進めていく。

◇官民協議会の取り組み方針に関して

- 航空会社として、航空機産業における水素・電動化に向けた議論が進捗しているのはありがたい限りであり、期待をしている。水素化、電動化、さらなる低燃費化に向けて航空会社としても貢献をしていく。機材や装備品は整備性も重要な観点で、運航や整備の実態に即した視点も必要になることが想定されるため、協力をしていきたい。
- 例えば国際標準化団体の参加者数をカウントする等、国内議論の活性化状況の見える化を検討いただきたい。
- ⇒ 事務局にて参加者数の把握は可能ではあるが、官民協議会で報告できるかは確認する。人材育成のガイダンス等を活用いただくことでも活動人数は増える可能性があり、そのようなツールも活用していく。

- 電動化WGにおいて SAE E-40 の日本開催がプレゼンス向上に繋がったといった事例が報告された。そのような事例の共有は実務者会合にてなされていると思われるが、WG間での共有についても検討いただきたい。